

日本聖公会



大阪教区報



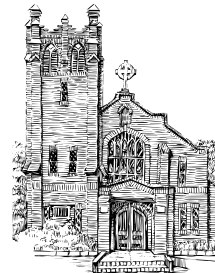
高槻聖マリヤ教会



聖ルシヤ教会



富田林聖アグネス教会



主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局

〒545-0053

大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8

TEL 06-6621-2179

FAX 06-6621-3097

osakakoho2022@gmail.com

発行責任者

総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第522号 2024年12月20日発行 +++++

祝ご降誕——神さまからの恵みが
やってくる主教 アンデレ 磯 晴 久
いそ はる ひさ

父と子と聖霊の御名によって
アーメン

さて、その地方で羊飼いた
ちが野宿しながら、夜通し羊
の群れの番をしていた。する
と、主の天使が現れ、主の栄
光が周りを照らしたので、彼
らは非常に恐れた。「恐れる
な。私はすべての民に与えら
れる大きな喜びを告げる。今
日ダビデの町に、あなたがた
のために救い主がお生まれに
なった。この方こそ主メシア
である。」ルカ2:8-11

クリスマス、おめでとうご
ざいます。皆さまが心豊かな
クリスマスを過ごされますこ
と、そして、この地上に平和
が実現しますようにお祈り致
します。

クリスマスの出来事を見つ
めておきますと、登場する
人々が、救い主イエスの誕生
のお告げを聞くと、恐れや驚

き、不安や戸惑いを憶えてい
ることに気がつきます。人々
にとつて、主イエス誕生の知
らせは、当然のことではなく、
思いがけない、意外な知らせ
であったことが分かります。
どう受け止めていいか、見当
のつかない出来事であったこ



とが分かります。

大学チャプレンの時、学生
たちとインド・コルカタにあ
るマザー・テレサが創設され
た「死を待つ人の家」を訪問
し、ボランティア活動をさせ
て頂く機会がありました。マ
ザーハウスに日本人が、私の

思いを超えて多数ボランティア
アをしているのに驚きまし
た。「自分探しの旅に出て、
世界のあちこちを巡り、その
最後の場所として、ここにい
ます」という青年がいました。
また、インドのことを研究し
たく、今ヒンディー語を勉強
している人もいました。そ
の方から、ヒンディー語につ
いてお話を伺いました。

ヒンディー語は、日本語と
語順が概ね同じで、日本人に
とつて比較的習得しやすい言
語とのことでしたが、必ず躓
く文法があるとのこ
と。それは「与格構文」。

「私はうれしい」と言う
場合、ヒンディー語では、
「私にうれしさがやって
きて、私に留まって
いる」と言うのです。
「私は風邪をひいた」
は「私に風邪がやって
きて、私に留まってい
る」。「私はあなたを愛してい
る」も、「私にあなたへの愛が
やってきて、私に留まってい
る」と表現すると言うのです。
文法の本によると、自分の意
思や力が及ばない事柄や現
象・感情については、「与格」
を使って表現するとありま

す。言葉っておもしろいなと
感じました。

クリスマスの出来事を見つ
めていて、私はこの「与格」
を思い出したのです。

主イエスの誕生の知らせ
は、「思いがけず、やってき
た出来事」でした。羊飼いた
ちは、まさか、天使によって
私たちの所にそのような知ら
せが届くとは、思いも寄らな
いことでしたので、彼らは「非
常に恐れ」たのです。しかし、
天使から「恐れるな」と励ま
され、救い主誕生の知らせが、
彼らの内に留まることになり
ました。

「今日ダビデの町に、あな
たがたのために救い主がお生
まれになった。この方こそ主
メシア（救い主）である。」
神さまの恵みが、あなたのと
ころにもやってきました。

「さあベツレヘムへ行つて、
主が知らせてくださったその
出来事を見ようではないか。」
羊飼いと共に主イエス誕生の
知らせを心に留め、ベツレヘ
ム（教会）に参りましょう。

「主よ、道を照らし、導い
てください。ベツレヘム ベ
ツレヘム ベツレヘムへと」

大阪教区 教区会 第135(定期)教区会 開会聖餐式 メッセージ

今日は日本聖公会大阪教区第135(定期)教区会に、よくお集り下さいました。感謝です。

主イエスのメッセージの中には、「神の国」があります。神さまは、私たちに約束して下さっているいつの日にか来るべき「神の国」を希望をもって待ち望むことと、同時にこの世界・社会・教会が「神の国」に近づいていくことを願っておられます。カトリック教会では、「福音化」と呼んでいます。

今、世界の聖公会には激震が走っております。カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師の辞任と言う報道です。同師が、聖公会の信徒であり弁護士ジョン・スマイス(故人)による少年・若者・自身の家族に対する度重なる重大な虐待事件の調査報告を受け、個人としてまた組織として十分な調査や対応を行ってこなかったことを認めて辞任を発表したのです。ジョン・スマイスによるイ

ギリスやジンバブエ・南アフリカでの青少年への虐待は信じられないぐらいの苛烈なものでした。これを受けて、日本聖公会主教会は、声明を出しました。

その中で、主教会は、被害者や生存者の受けた傷や今尚続く深い苦しみに、主の癒しが与えられますように祈ると共に、聖公会の信頼の再構築を祈りました。

そして日本聖公会の中にあるハラスメント体質を乗り越えて行くために、私たち一人ひとりがこの出来事を、自分たちの課題として受け止め、世界の聖アングリカン・コミュニティにつながる教会とともに一層セーフチャーチを務めていこうと呼びかけています。私たちも教区・教会で学び・話し合い・祈りながらセーフチャーチ構築に尽力していきたいと思います。

ピラトやヘロデの国は、独裁、専制、特権階級が人々を武力で支配する国です。しか

し、主イエスの神の国は、愛と正義と赦しと奉仕による御国、嘆き悲しむ弱い立場の人々、小さくされている人々の声に耳を傾け、小さなながら存在が大切にされる国です。

私たちの国も世界も、教会も、主イエスの御国に少しでも近づくように、これが神さまの願いであります。セーフチャーチの構築を目指して、私たちも歩んで参りましょう。

父と子と聖霊の御名によって アーメン

主 教 演 説

主の御名を賛美致します。

皆様、祝日の日に、またご多用な中、第135(定期)教区会のためお集まりくださいましたことを、感謝申し上げます。また、いつも教区・教会のために祈りと支え、そしてご奉仕下さいますことに、重ねて感謝致します。

私が主教として招集する定期の教区会としては最後の教区会となります。主教に選出されました時、全くふさわしくない器でありますので、神

さまのいたずらか、何かの間違いかと正直思いました。

10年近くにわたる皆さまのご協力と忍耐、お祈りなくしては、務めることはできませんでした。2025年3月31日まで、どうぞよろしくお願い致します。心から感謝を申し上げます。

大阪教区現状▽

教会 21 伝道所 1
学校 3 (プール学院 桃山学院 聖バルナバ病院助産師学院)

病院 1 (聖バルナバ病院) 社会福祉施設 4 (博愛社・東光学園・聖ヨハネ学園・三光塾)

NPO法人聖公会生野センター

聖職 主教 1 司祭 14

(出向2 任司祭 奥村司祭) 実習聖職候補生 1

宣教協働者 司祭 2

嘱託司祭 11 (大西主教は中部に出向)

(京都教区からの協力(嘱託)司祭 1 宣教協働者嘱託 1)

先日、主教選挙のための第134(臨時)臨時教区会において、3回目の選挙で、バルナバ小林聡司祭が選出されました。現在各教区主教に、承認

を求める手紙が送られています。過半数以上の承諾があれば承認され、そして小林司祭の受諾表明となれば、被選主教となり、主教按手・就任式の準備に進んで参ります。皆様のお祈りをよろしくお願い致します。

聖職数の減少は、大きな課題です。退職聖職の皆さまのお働きに感謝致します。新しい働き人が与えられますように、お祈りを続けましょう。

また、宣教協働者の皆さまのお働きに感謝致します。

庄内キリスト教会と石橋聖トマス教会の合併は、英断でありました。両教会のよさが生かされています。その祈りと勇氣に敬意を表します。急速に進んでおります人口減少を考えますと、教会の合併・協働は避けられない課題と考えます。トマス・庄内の皆様にお話を聴くなど、各教会でもお話し合いを進めてください。そうした中、聖贖主教会と大阪聖パウロ教会の間でも合併の計画が進んでおります。皆様のお祈りとお支えをよろしくお願い致します。

教会建築を成し遂げ、大きな負債を抱えながら歩んでい

る大阪聖三一教会のために祈りください。困難な中にありますが、アモス金頭昇司祭はじめ皆様、博愛社小規模児童養護施設「つむぎ」の皆様も、大変元気で、イキイキと歩みを進めておられます。更なるお祈りと支援をよろしくお願い致します。

△教区▽ この後、諸報告の中で報告がなされますが、総務局では、3局長会議の活性化や課題でありました組織の改編・整備の取り組みが始まっています。広報委員会も教区報について工夫を凝らした内容になっています。

礼拝・音楽委員会は、管区で進められています祈禱書の改正作業を見つめながら、祈禱書やチャントなどの学びの機会を増やして下さっています。

実習聖職候補生 大倉有紀さん、聖職候補生 薦田久美子さん、教区神学生 浅海由里恵さんのために祈り下さい。

信徒として宣教師の道を模索しておられるエスター・マクストンさんのために祈り下さい。
現役で逝去となりました原

田光雄司祭、同師の管区・教区・教会、そしてエキュメニカルな活動でのお働きに感謝します。96歳で逝去されました松山龍二司祭、魂の平安とご家族のためにお祈り下さい。長きに渡るお働きに感謝します。

入院中の坪井克己司祭のため、公共の福祉のサービスを受けておられる林正樹司祭のためにお祈りください。

△今後の歩み▽

今、日本聖公会、大阪教区、教会も新しい器になろうと模索を続けております。教役者の不足、信徒の減少、働き人の高齢化、財政の逼迫、建物の老朽化、主教選出も厳しい教区があり、東・中・西日本宣教協働区ができ、宣教協働と新教区設立に向けての取り組みがなされています。教会間でも合同や合併の取り組みが行われています。日本聖公会・教区・教会は変革の時にあり、新しい器となるための産みの苦しみの中にいます。大阪教区では大阪教区ビジョン2024を策定しました。ビジョンチームのお働きに感謝します。

キリストにつながる先人たちの心と働きを、今の時代に即した形で受け継ぐ共同体を目指します。

多様な人々が安心して集い、多彩な形で共に祈る共同体を目指します。

すべての「いのち」が尊重され、回復され、喜びに満たされる共同体を目指します。

2023年日本聖公会宣教協議会からは、私たちに對して呼びかけがありました。声明文ではなくて、みんなに届くように「呼びかけ」がなされました。

神さまの声に耳を傾けよう
△祈り・み言葉・礼拝▽
人々の声に耳を傾けよう

△教会・地域・となりびと▽
世界の声に耳を傾けよう
△神が創られた自然・世界・社会▽

権力や力ある地位に立つ人の声は大きく聞こえてきます。小さい者、弱い者、社会弱者と呼ばれる人々の声は小さく、かき消されてしまします。しかし、主イエスほど、嘆き悲しむ小さな人々の心の声の耳を傾けた方はなかったと思います。小さくされた人々の声に耳を傾ける宣教を

しようと呼び掛けています。

「聴く」ためには備えがります。人は真剣に聴く人には、口を開きます。そこから宣教・伝道が始まると呼びかけています。

この他にもファイブ・マークス、聖公会の宣教の5指標などがあります。

これらは、私は、新しい器になるようにという神さまからの指し示しであり、贈り物だと感じております。

こうした宣教・伝道のビジョンや呼びかけを、私たちは大切に歩み出しましょう。各教会でのお話し合いをお願い致します。

今世界は大変です。地球温暖化、気候変動、地震、豪雨、洪水、ロシアとウクライナ戦争、イスラエルとハマスの戦争、ミャンマー、スーダンなど、世界が混乱しています。貧富の格差も増大しています。大国の利益のために、多くの罪なき人命や人権が損なわれています。対立と破壊が世界を覆っています。

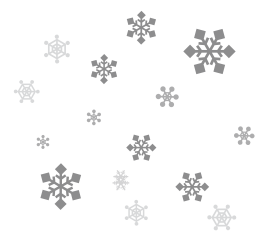
日本も国内に大きな課題・問題を抱えております。主イエスは私たちに、神さ

まを愛し、互いに愛し合うように教えられました。

また、パウロはキリスト者の生活指針として、「私たちも数は多いが、キリストにあつて一つの体であり、一人一人が互いに部分なのです。」(ローマ12:5)と語り、さらに、「愛には偽りがあつてはなりません。悪を退け、善に親しみ、兄弟愛をもって互いに深く愛し、互いに相手を尊敬し、怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。希望をもって喜び、苦難に耐え、たゆまず祈り、聖なる者たちの必要なものを分かち、旅人をもてなすように努めなさい。」(ローマ12:9-13)と勧めています。

対立や破壊が覆う世界ですが、私たちは主イエスの言葉、パウロの言葉を大切に歩みましよう。

父と子と聖霊の御名によつて、アーメン



日本聖公会 第135(定期)教区会報告

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

※第135定期教区会の前に、第134臨時教区会が11月4日に開かれ、大阪教区主教選挙が行われた。三回の投票が行われた結果、バルナバ・小林聡司祭が当選しました。

11月23日(土・休)午前9時、大阪教区主教座聖堂川口基督教会に第135(定期)教区会が召集されました。

磯晴久主教の司式により開会聖餐式が執り行われ、代祷ではこの一年に逝去された聖職・信徒代議員を憶えて祈りをささげました。宣教師イブリン・ロー師、司祭ヨシユア原田光雄師、司祭松山龍二師、ヨハネ久保孝彦さん(西宮聖ペテロ教会)、マルコ佐藤耕一さん(西宮聖ペテロ教会)、森英雄さん(尼崎聖ステパノ教会)、グレース田中恵子さん(大阪聖愛教会)、ヨハネ伊勢田健さん、(大阪聖愛教会)。また、この礼拝で献げられた信施47,83

5円は能登半島地震被害者のため用いられます。

聖餐式終了後は川口基督教会会館三階へ移動し、本会議が10時から始められました。教役者議員14人中12人、信徒代議員33人中32人が出席し、各報告を通して教区の現状や諸課題を分かち合いました。正午からは会館二階で昼食休憩を取り12時45分から議事再開、諸報告の続きがなされた後に議案審議が開始されました。

今年の議案は第1号議案の「2025年度日本聖公会大阪教区一般会計予算(案)承認の件」、第2号議案の「基本財産変更の件(大阪聖パウロ教会の牧師館売却)」、第3号議案の「基本財産変更の件(大阪聖ヨハネ教会の土地建物所有権移転)」、第4号議案の「基本財産変更の件(大阪教区館・主教邸の土地活用)」、第5号議案の「事業委員会設置の件」以上5項目で、

全項目が承認されました。

審議の後に短い休憩を挟んで常置委員選挙と会計検査委員の指名がなされた後、聖歌第562番を歌い心を合わせて主の祈りを唱え、磯晴久主教の祝祷をもって15時35分に閉会しました。

なお、常置委員選挙の結果は、千松清美司祭、義平雅夫司祭、柳時京司祭、寒河江研司さん(大阪聖三一教会)、加納佳世子さん(大阪聖アンデレ教会)、辻彩乃さん(川口基督教会)、次点者として内田望司祭、太田幸彦さん(聖ルシヤ教会)、二次補欠として成岡宏晃司祭、豊川雅章さん(大阪聖愛教会)が選出され、会計検査委員に春名英夫さん(恵我之荘聖マタイ教会)と山本多津子さん(芦屋聖マルコ教会)が指名されました。



(書記長)

『杖ひとつ』

おもいでばなしふたつ

聖ルシヤ(光)教会への思い

モ二カ 藤間 孝子

むかしのようになさくなつたら おもいでばなしをすればいい

絵本作家のヨシタケシンスケさんの言葉です。

私にとつてのおもいでばなしは聖ルシヤ教会です。ごした日々のことになります。

ひとつめは。

日本聖公会大阪教区南海高野線開拓伝道所と名付けられ富田林金剛団地の一信徒宅リビングルームで最初の聖餐式が行われてからです。五十年前。

教会を建てようとのかけ声で土地を求めプレハブの建物からスタートしたあの頃はみんな若かった。バザーの商品を集めたり縫ったり編んだりお菓子を焼いたり、ある教会から金魚すくい一式が、うちの余り物ですけど届いた時はびっくり。大きなビニールプールに元気な金魚がいっぱい。小さな駐車スペースにタ

コヤキ、ヤキソバ、わた菓子と店を並べた村祭りのような店でした。でもよく売れました。

ふたつめは。

お金集めだけじゃない、地域のひとのかかわりや奉仕も大切という声のひとつからはじめられたのが、「点字の会」視覚障害の子供をサポートしようと教会外の人も参加して読み物から参考書、ドリルなど点訳しました。今、活動の場は大阪狭山市福祉センターに移しましたが「聖ルシヤ教会点字の会」の名はそのままに残しているのが私の「光」への思いです。



司祭の書棚から

むかいやいよくし
向谷地生良

「精神障害と教会 教会が教会であるために」

(2015年 いのちのことば社)

司祭

フランチェスコ

成岡

宏晃

「生きづらさをかかえる人と共に」という最初の小見出しで始まる本書は、「教会共同体の本質」について大切な示唆を与えていると言える。著者の向谷地さんは北海道浦河町にある社会福祉法人浦河べてるの家を創立したソーシャルワーカーである。統合失調症などのいわゆる「精神障害」を抱える方々の自立支援施設である浦河べてるの家が大切にしている理念、「弱さの情報公開」の実践を通して、集められた人々が互いの苦勞と弱さを分かち合い、そこから祈りが生まれ、弱さや痛みを担い合って歩む共同体の姿が語られている。

さらに、「関係の回復」に必要なテーマについて「前向きな無力さ」であると続き、具体的な7つのポイントが紹介される。

- ①「その人(他者)を支配したり管理したりしないこと」
- ②「自分の力のなさを認めること」
- ③「人を変えようとするのではなく、自分自身を変えること」
- ④「自分と相手を受け入れること」
- ⑤「正すことではなく、励ますこと」
- ⑥「その人の人生を認め、大きな力(自分を越えた力・存在)にゆだねること」
- ⑦「もっともかわりの難しい当事者は、誰でもない自分自身である」と、しっかりと刻んでおくこと

「福音宣教」の働きに招かれている私たちが目の前に与えられる出会いを大切に受け止め、どのように生きようとしているかを振り返り、祈り続ける「信仰生活」をこれからも問い続けたい。

「三」一 体 いのち 彩る 祈り」改正祈禱書への招き

日本聖公会祈禱書小史②

司祭

フランチェスコ

成岡

宏晃

第二次世界大戦後間もない時期に開催された1948年のランベス会議において、祈禱書改正に関して次のような決議があった。

「祈禱書は、今日まで全聖公会の一致の強い絆であったし、また今日もそうである。それゆえに祈禱書の改正は、世界聖公会の教理と、承認された共同的礼拝にかなうものでなければならぬ」

た。そのほかにも、「ジャズ・ミサ」や「フォーク・ミサ」などの作曲や「パリス・シ・コミュニケーション」と呼ばれる家族ぐるみで聖餐式に出席することが奨励されるなどの新しい動きも起こった。また、1958年のランベス会議でもその影響は表れており、以下のような決議がなされた。

「(本ランベス)会議は、聖書学および礼拝学から得られた新しい知識の結果として、聖公会に属しながら異なった伝統を有する諸教会の、教理的・礼拝的事柄における一致を見出そうとする現在の動きを歓迎する」(具体的には、聖餐式における旧約日課朗読の回復など、いくつもの改正がなされた)

当時示されたおおまかな礼拝の特徴は、礼拝の共同体性の強調、世俗的教会における礼拝の執行、礼拝に集う者が日常的に使っているものを用いて礼拝を行うことの強調であると言われている。つまり、

共同体性とは「同一の礼拝を行くこと」によってではなく、「地域の文脈(コンテキスト)の多様性を尊重した礼拝を行うこと」によって生まれるということである。さらに、エキュメニカル運動が活発化し、教派超えた代表者による共同委員会も結成され、これまでの特定の教派的伝統の特徴や長所を保ちつつ、聖書と歴史的な伝統と豊かな経験と第一義に置くことによって、「従来」の礼拝形式を克服する方向を決定つけた。

一方で、1958年ランベス会議での決議より早く、日本聖公会では祈禱書の大規模な改正が検討され、「これは聖公会の伝統から離れるものであり、全世界を通じて同一の祈禱書を使用することによって保たれてきた聖公会の一致を危うくする」と英国のたとある主教に言わしめた、日本聖公会の「日常性」を重要視した祈禱書が1959年に刊行された。

(参考図書・森紀旦『聖公会の礼拝と祈禱書』1989年、聖公会出版)



ソウル教区主教按手式

ステパノ 司祭 柳時京

大韓聖公会ソウル教区の第7代教区長に選出されたエリヤ金ジャンファン主教(61歳)の按手就任式が9月26日(木)午後2時から、東洋一のビザンティンモザイクで知られる聖母マリアと聖ニコラ主教座聖堂で、連合聖歌隊の礼拝奉仕と共に、歌による厳粛な礼拝(聖餐式)が行われた。

大阪教区を代表して、磯晴久主教と総務局長の柳時京司祭が出席し、日本聖公会からは、首座主教の上原榮正主教(沖縄教区)をはじめ、北海道教区(笹森田鶴主教、東北教区(長谷川清純主教、東京教区の高橋宏幸主教、九州校区の武藤謙一主教)が出席した。また米國聖公会本部東アジア担当官と英國聖公会、香港聖公会、ミャンマー聖公会、東南アジア聖公会管区の主教らが参加し、正教会やNCCなどエキュメニカルパートナーや円仏教など他宗教の代表も祝賀の意を共にした。

新任エリヤ金主教は就任辞を通して次のように言われた。「私は聖書的リーダーシップを講義しながら、信徒の皆様がこのよう

質問を投げかけます。『イエス様が私たちのために死なれました。それではイエス様の次に死ぬべき人は誰でしょうか?』と言うと、信徒の方々は『司祭様です』とお答えになります。その時、私は『いいえ、司祭ではなく主教ではないでしょうか?』と答えています。そのように言っていた私が今、イエス様の次に死ぬ順番の當事者としてここに立っています。」「韓国社会でキリスト教は急激な衰退の道を歩んでいます。しかし、教会が教会の本質を回復すれば、教会が教会らしくなれば、時代と状況がどうであれ、教会の主人である神様がその教会を用いられます。何よりも、私たちに教会を教会らしく回復することを望みながら、聖公会を神様の教会に返す情熱と献身が倍になることを願っています。」

金主教は、かつて開拓教会の牧師として、2000年秋に連合男子会の一泊修養会のため来阪され、「21世紀を迎える心の準備、信徒の使命と役割を点検する」というテーマで「真のイエスの弟子とは」という題で講義したことがある。ソウル教区の定年は65歳。主教としては、四年と四ヶ月の期間つとめられる。

(川口基督教会牧師)

日韓聖公会宣教協働40周年式典に参加して

10月21日(24日) 済州島にて

ルシヤ 村上(古澤) 恵依子

1984年に「第1回日韓宣教セミナー」から日韓両聖公会の宣教協働が正式に始まってから今年で40年になり、それを記念した記念大会に参加してきました。私は学生時代に日韓宣教協働の一つであった日韓青年交流キャンプに参加者として、またスタッフとして、参加した経緯があり、この記念大会に参加する恵みに与りました。

今回「共に生きる世界」というテーマで1日目、2日目は交流会と両聖公会から発題(日本側からは武藤主教、呉光現さん、長谷川主教)があり、学びと交流を深めました。

3日目は4・3平和公園を訪問し、4・3事件(※)で犠牲になった方々のため祈りを献げ、戦跡フィールドワークを通して過去の痛みを共有しました。その後、済州友情教会を訪問し、日本聖公会からも献金が献げられ改築された「韓日友情の家」(リトリートハウス)の祝福式に参加しました。

日本聖公会の各教区の主教座聖堂の写真が飾られ、日韓の友情を象徴するというビジョンが掲げられています。

今回、記念大会に参加して一番印象的だったのは、青年たちの交流している姿でした。昨今のKカルチャーの影響で、既に韓国語を話せる青年が多く、以前から親しくしている様に交流を深めていました。私はその姿に、日韓両聖公会の未来の姿を見ているようでした。ここに希望があるんじゃないかと。

私が青年の参加者・スタッフだったとき、青年たちが心ゆくまで交流できるように、心を尽くしてくれた大人がいました。私が悩んだり落ち込んだりしたとき、励まし、それでいいんだよと背中を押してくれる大人がいました。頑張っているね。と気にかけてくれる大人がいました。次は私の番だ。私がしてもらったように、私もそんな大人になりたい。今回の青年たちの交流を見ていてそう感じました。そして、これからも日韓

両聖公会の協働のために少しでも関わっていききたいと感じました。また、今回の私の訪韓にあたり、たくさんのお祈りとお支えに感謝します。ありがとうございます。

※1948年4月3日に南朝鮮だけで行われた大統領選挙に反対し、蜂起した島民たちに対して、南朝鮮国防警備隊、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島本土の右翼青年団などが1954年9月21日までの間に引き起こした虐殺事件を4・3事件という。

(大阪聖愛教会信徒)

阪神淡路大震災30周年記念礼拝

2025年1月17日(金)14時 川口基督教会
1部 記念礼拝 司式説教：磯晴久主教
2部 証し 松岡慶一司祭と信徒による
当時の話

主催：大阪教区
共催：川口基督教会、西宮聖ペテロ教会、
芦屋聖マルコ教会、庄内伝道所

台湾聖公会宣教70周年記念式典 訪問ツアーに参加して

ヘレン 立山恭子
たてやまきょうこ

記念式典は9月28日(土)に聖ヨハネ科学技術大学(新北市淡水町)を会場に4名の主教、31名の教役者、約850名の信徒参加のうちに厳かに施行されました。

聖餐式は台湾聖公会の張員榮主教が司式され、説教は米國聖公会ハワイ教区のフィッツ・パトリック主教でした。説教は日本語に翻訳されプリントしてあったのでよく理解できました。また、第一課は日本語で台湾留学中の日本人研究者により読まれたことは大阪教区の参加者のことを考えてくださったのではと感謝でした。

式典の前夜は歓迎会があり、ハワイ教区主教ご夫妻、ロスアンジェルス教区主教も参加しておられました。

式典終了後に昼食休憩をはさみ午後は感謝音楽会が催され、11教会からのコーラス、奏樂があり、大阪教区は「ともに(台湾聖公会60周年記念

に友好を記念して、大阪教区信徒辻彩乃作詞作曲)」を歌いました。

最後は淡水布農教会による台湾原住民の生活を紹介した歌劇がありました。台湾語の発音は日本語の発音と似たものがあり興味深く感じました。

29日主日は、今年4月に設立されたばかりの林口聖多馬堂(台北市林口地区)の礼拝に出席しました。現在は女性の執事郭夢蓉が常駐し、主日礼拝は朝の礼拝、月に一度の聖餐式には主教あるいは管理司祭の李鎮丞司祭が来られます。この新教会設立計画は牧愛堂(台北市士林区)で数年前に計画されたとのことでした。会堂はビルの1階が礼拝堂、2階が集会室で、礼拝堂は道に面して総ガラスなので礼拝の様子が道から見ることでできます。台湾聖公会はこの先7年以内に台中と台南にも教会の設立を計画しているそうです。

午後は九份、昔金鉱で栄えた山の急斜面にある町を見物しました。かなり急な湾曲した坂道を上り、石段の街は多くの若い観光客で埋め尽くされていました。

帰国日の30日は午前中に中正紀念堂と龍山寺を見学し、夕方6時半に閑空に帰着しました。

全員が体調良く無事に旅を終えて感謝でした。今後も台湾聖公会との人的交流が継続されることを祈ってやみません。ツアー参加者は聖職者7人(退職司祭含む)、信徒10人(うち京都教区2名)でした。

(高槻聖マリヤ教会信徒)

ピース 木村歩美
きむらあゆみ

私の今回参加させて頂いた台湾聖公会宣教70周年記念式典のツアーは、私にとって初めてのことの連続であり、新しく信仰を深めるきっかけとなった最高のツアーでした。70周年記念礼拝では、日本語の通訳をしてくださり、日曜日の礼拝では週報や説教を日本語と台湾語の二か国語で書いてくださるだけでなく、礼拝の半分を日本語でしてくだ

さいました。九份などの観光もとても楽しく、四日間の間ずっと幸せでした。私は、今回のツアーによっておもしろい心をもつて感じました。そして、どれだけ台湾と日本が離れていても、神様によって結ばれているのだと感じました。

(石橋聖トマス教会信徒)



2024年9月28日 台湾聖公会70周年感恩慶典活動 聖約翰科技大學 百齡堂

聖ヨハネ科学技術大学で行われた台湾聖公会宣教70周年記念礼拝 集合写真

広報委員会から

大切なお知らせ

主の御降誕をお祝い致します。

今年度も大阪教区報をお読みいただき感謝いたします。

さて、今年もたくさんの方の記事を掲載してまいりましたが、来年度より、広報委員会ではますます良い記事掲載のために、掲載依頼のフォーマットを作り、フォーマットを原則、発行日の二ヶ月前に広報委員会へと送付いただくようにする予定です。広報委員会から掲載を依頼するもの以外すべて、依頼を受けてから、検討を始めます。もし広報委員会から依頼がなければ原則検討しておりませんが、掲載を希望する報告などは必ず二ヶ月前までにご依頼いただけますようお願いいたします。各委員会の活動、また教会の宣伝などよくお寄せいただければ幸いです。詳しくは来年送らせていただきます書類、並びメールなどをご確認ください。

(広報委員長 金山)

婦人会秋の修養会

モニカ 今西 和子

長かった今年の夏もようやく終わり、秋らしい風が感じられる10月18日(金)に高槻聖マリヤ教会で2024年度の秋の修養会は開催されました。

講師は社会福祉法人「聖ヨハネ学園地域生活支援センター光」の施設長種本浩司氏です。

種本氏は地域生活支援センター開設時(2007年4月)から尽力され、障がい者施設が脱施設の流れている中で、全個室に36人受け入れ、(入所者の85%が脳性麻痺による重度の身体障がい者)家族、地域の生活支援のために、レスパイト利用、社会参加利用など短期入所も受け入れ、いろいろな取り組みをされています。また高槻市民優先というのも、地域生活の延長線上にある入所施設という地域密着の施設という思いの現れです。

運営理念にある「個人の尊厳を重んじ、意思を大切にした福祉サービス」「地域生活

や自立を支援し社会参加

きがいを追求できるよう援助する」「人権尊重に根ざした明るく心豊かな生活をともに求める」など人同士がかかわるとき、基本になる思いで改めて学びなおしました。私たちが心がけて、人とのつながりやかかわり方を見直していきたいと思っています。

参加者は信徒80人、教役者5人信施金は84,450円で全額「地域生活支援センター光」におささげします。また能登半島への緊急支援の募金も33,720円集まり、日本聖公会管区事務所を通して被災地に送ります。

修養会のあとはバザーでにぎわいました。お茶お菓子など、この日のためにご用意ありがとうございました。この日のためにご準備下さった高槻聖マリヤ教会には深く感謝致します。

(川口基督教会信徒)



ミス・ブル記念ホーム

喫茶奉仕再開

マルタ 原山 裕子

11月8日(金) ミス・ブルホーム喫茶が再開されました。コロナの間お休みしていたので約4年ぶりです。私たちもミスブルの職員の方々もまるで初めて喫茶を開催するような緊張感があり、いろいろ思い出しながら準備や打ち合わせをしました。

当日は以前より早く14:00から喫茶は始まりました。今回私たちは大阪教区婦人会役員5人、福祉担当2人、高槻聖マリヤ教会5人の計12人です。

内田司祭のお祈りと松本愛子さん(パウロ)の始まりを告げるアナウンスが流れると、職員の方に付き添われて、入居者の皆さんが続々と入ってこられました。

歩いて来られる方、車いすで来られる方、さまざまですが、メニューをご覧になる目は期待に満ちていらつしやいます。メニュー内容は「コーヒー、紅茶、プリン、ゼンざい、わらびもち」の5品目。「何

がいい? コーヒー、プリン? ぜんざいもあるよ。」職員の方の問いかけに悩みながらも注文をされていました。

その間私たちは、すぐお出しできるようにプリンをお皿に盛りつけたり、切っておいたわらびもちに黒蜜をかけたリ、お茶を冷ましておいたりとお忙しです。「お待ちせしました」お膳をおもちすると、嬉しそうな表情をされ、その様子に、私たちも心が温かくなりました。

15:30、職員の方の手厚いサポートのおかげもあってホーム喫茶は盛況のうちに終了しました。1時間半という限られた時間でしたが、約70人のご利用がありました。

ささやかなメニューしかないホーム喫茶ではありますが、普段外のお店には行けない入居者の方々、この時間だけは喫茶店の雰囲気を楽しんでおられたのではないかと思います。

次回はイースター後の開催を予定しています。

(高槻聖マリヤ教会)



逝去された教役者を憶えて

ヨシユア原田 光雄 司祭 (11月15日)

ペテロ 松山 龍二 司祭 (11月20日)

サムエル坪井 克己 司祭 (11月27日)

逝去されました大阪教区の教役者たちを憶えて祈ります。次号にて追悼記事を掲載し、魂の平安をお祈りいたします。



立教学院聖歌隊来阪

グレース 辻 彩乃



9月8日から15日まで、聖歌隊長スコット・シヨウ先生とオルガニスト遠藤陽平さん率いる立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊の関西ツアーが行われました。総勢30人の大所帯です。初日8日は川口基督教会の聖餐式からスタート。立教聖歌隊による詩編、アレルヤ唱、主の祈り、アンセム2曲の奉唱や瑞々しい聖歌の歌声に、川口の会衆一同は大いに励まされ、心に残る豊かな礼拝となりました。礼拝直後のミニコンサートや昼食時の楽しく賑やかな交流も加わり、ウィリアムズ主教によって結ばれた繋がりをともに感じる

ことができたように思います。午後4時からのコンサートでは約90人のお客様が聖歌隊の美しいハーモニーを味わい、最後には聖歌31番「日暮れて」を全員で歌いました。その後、プール学院中学・高等学校や神戸国際大学での演奏、神戸松蔭女子学院大学・桃山教育大学聖歌隊との交流、神戸聖ミカエル大聖堂での唱詠晩祷や聖餐式でご奉仕をされ、関西ツアーを大盛況のうちに終えられました。

(川口基督教会信徒)

会計委員懇談会

イサク 寒河江 研司

9月21日、各教会の会計委員に集まっていただき、会計委員懇談会を開催した。

臨席いただいた磯主教様からメッセージをいただき、教区会計の中間報告と年度末予想を共有し2025年度の教会分担金案を提示した。

その後、参加したすべての教会会計委員より自教会の会計状況、意見などを発表していただき、それを分かち合った。

多くの教会から、信徒の高齢化、減少により献金が少な

くなり積立金を取り崩している状況との報告があった。そんな苦しい会計の中、さらに、教会建物の老朽化や耐震補強が必要などの問題がおきてきている。収益事業による収入で今はまだまかなえているとの報告をされた教会もあった。新しい牧師を迎え頑張っている。牧師給与の支払いが発生したり、建物維持するための多額の出費をしたおかげで、信徒ひとりひとりの献金意識が上がってきたとの報告もあった。

状況報告の他、意見なども出された。教会献金を分担金の一部にしてはどうか。教区会などに出席する際の交通費などの規定を決めたほうが良い。教会数と教役者数のアンバランスをみると教会単一の意識から、教区全体の意識に変えていかなければいけない。教会合併による教区内再編、収益事業による収入の必要性。

これらの状況報告と意見などの中から今後の課題、進む道を見出すことができると感じた。

活発な意見交換がされ、一同祈りをもって閉会された。

【常置】委員【会】報告 10/18 第17回(定例)

I. 主教報告及び諸報告

- ・クリスマスから新年礼拝各教会の礼拝担当者の報告を受けた。
- ・人事について以下のとおり報告を受けた。原田光雄司祭は淀川キリスト教病院緩和ケア病棟に入院した。浅海由里恵神学生は入院・手術・静養のため、10月末～11月11日ウィリアムズ神学院を休学する。金頭昇司祭はソウル教区新主教との面談のため、一時帰国をする。
- ・日韓聖公会協働40周年記念にあたり、教区より、教役者の署名をした聖書協会共同訳聖書を贈呈する。
- ・担当教区として開催した人権セミナーのプログラム変更があったことについて説明があった。
- ・ソウル教区主教按手、台湾聖公会宣教70周年記念に対し祝い金を持参し、それぞれの式典および記念会について報告を受けた。
- ・大阪聖パウロ教会と聖贖主教会の合併について検討していると報告があった。
- ・事業委員会より教区内の土地・建物の活用について進捗報告があった。
- ・3月17日開催の第132(臨時)教区会議事録および決議録が未完了のため書記局に再度催促したと報告があった。
- ・第134(臨時)教区会での次期教区主教選挙に対し、主教選挙候補者推薦管理委員会より2名の推薦者があったと報告を受けた。

II. 協議事項と主教諮問

- ・2025年度牧会献金を継続することを承認した。
- ・2025年度会計予算(案)が提示され承認した。
- ・第135(定期)教区会に提出する5つの

議案について確認をした。

・第133(臨時)教区会議事録の読み上げが書記古澤秀利司祭よりあり、修正箇所を確認した。

・主教より来年度の人事案が提示され協議した。

・教区墓地の納骨について、大阪聖三一教会と戸屋聖マルコ教会から埋骨申請があり、11月合同埋葬式で埋骨することを承認した。

・行政書士三浦基子氏と聖贖主教会の案件について個別契約を結ぶことを承認した。

・磯主教は12月6日～8日休暇を取ることの報告を受けて了解した。

I. 主教報告及び諸報告 11/14 第18回(定例)

・第134(臨時)教区会における主教選挙で小林聡司祭が選出されたことと今後の流れを確認した。

・人事について以下のとおり報告を受けた。原田光雄司祭が重篤のため面会謝絶となっている。浅海由里恵神学生は静養のため1週間休学期間を延長した。「外国人との共生を目指す関西代表者会」の日本聖公会の世話役を原田光雄司祭に代わり、古澤秀利司祭が担当する。

・主教より、降臨節、降誕日の各教会礼拝日程の提示があった。

・カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師父の辞任表明を受けて、ヒュームユウワン司祭による翻訳版を提示した。

・管区人権セミナー担当教区として、宣教局で報告書をまとめ、主教会・管区人権担当者会・京都教区に提出することが報告された。

II. 協議事項と主教諮問

- ・神学生奨学金貸与について、申請書

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会

1月8日(水) 10:30~



1日	宣教師	ヘンリー・ラニング (1917米)
	司祭	デービッド・マーシャル・ラング (1946英)
	司祭	ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950英)
3日	主教	ウイリアム・オードリー (1910英)
	司祭	河合 莞二 (1939)
8日	司祭	テモテ 名出 望 (2015)
12日	司祭	ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
	司祭	ギデオン 小川 博司 (2002)
13日	伝道師	三木 八十五郎 (1918)
15日	伝道師	寺本 房吉 (1960)
17日	司祭	パーシー・A・スミス (1945米)
19日	司祭	ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
	主教	アーサー・リー (1958英)
	伝道師	今泉 頼子 (1970)
20日	司祭	ヒカル 柳原 光 (1994)
	主教	オーガスチン 高野 晃一 (2015)
21日	司祭	久永 光雄 (1937)
22日	主教	ペテロ 松本 寛一 (1980)
25日	執事	下部 徳太郎 (1933)
26日	司祭	パウロ 井上 進次 (2016)
27日	司祭	サムエル 久保 道則 (2011)
30日	執事	バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
不詳	司祭	山下 有任 (1903)

2月12日(水) 10:30~

1日	宣教師	エルザ M.キーン (1949英)
3日	司祭	トマス 佐藤 時雄 (1989)
5日	司祭	パークレー・フォーウエル・バクストン (1946英)
8日	宣教師	フランシス・エドワード・ハモンド (1932英)
10日	司祭	祖山 達三 (1941)
	司祭	皆川 晃雄 (1952)
	宣教師	フローレンス・マリアン・ファジル (1956英)
13日	伝道師	マリヤ 奥田 ヤス子 (1949)
14日	司祭	J. ハミルトン・クインビー (1882米)
16日	司祭	ステパノ 久保 登知雄 (1981)
17日	司祭	ジョージ・ヘンリー・ポール (1929英)
19日	伝道師	小橋 かつえ (1964)
20日	司祭	ヨセフ 松岡 安立 (1972)

常置委員会報告(続き)

に保証人の欄を設けることを協議し、継続審議とした。

・第135(定期)教区会に提出する5つの議案について承認した。事業委員会の運営規則について協議し、今後の課題として継続審議とする。

・教役者の休暇について、主日を1回入れた2週間の休暇をとることにについて協議し、休暇中の協力者が必要になるため、今後の体制について検討する。

・原田光雄司祭の葬儀は教区葬とし、会場は川口基督教会で行うこととした。

・2025年1月17日阪神淡路大震災30周年記念礼拝について、説教者を磯崎久主教として教区礼拝として行う、担当者は内田望司司祭と柳時京司祭とする。

・磯崎久主教の定年退職に際し、12月2月の期間で主教感謝募金を行う。
・第133臨時教区会議事録の修正版が書記局から提出され、数か所の訂正と追記の確認した。

【局長会報告】
10/9
第9回

【宣教局】

・インターナショナルデーの内容、生野センターの理事交代、大阪で開催の人権セミナーについて報告があった。

・教会遠足の活動について報告があった。

【財政局】

・9月に実施した会計委員懇談会について報告があった。

【総務局】

・広報委員会の役割を、「教区報編集」

から「教区の広報活動」に広げる検討を行う。

・牧会支援委員会の名称を役割に合わせたものとすることを検討する。

【協議事項】

・9/23実施の教区礼拝の振り返りを行った。

・主教授実施についての検討を行った。

・定期教区会の準備について協議した。

【宣教局】

・10/7-8開催の人権セミナーのプログラム変更の説明と共有意見について報告があった。

・教区のLINE公式アカウントを取得した。

【総務局】

・教区関係諸規則の改正を検討する。
・2025年度各委員会の委員について各委員会で検討する。

【協議事項】

・主教授実施の振り返りを行った。

・定期教区会の準備について協議した。

洗 礼

西宮聖ペテロ教会 (10月27日)

アンソニー 田尻 哲也

川口基督教会 (11月24日)

シメオン 米里 義守

スザンナ スミヤトウエ

堅 信

西宮聖ペテロ教会 (10月27日)

アンソニー 田尻 哲也

大阪聖アンデレ教会 (11月17日)

マリヤ 濱野 生梨子

パウロ 北原 純三

逝 去 者

聖愛教会

サムエル 伊勢田 達也

フィリポ 剣持 寛人

堺聖テモテ教会

ミリアム 松原 美智子

芦屋聖マルコ教会

グレース 関谷 祥子

高槻聖マリヤ教会

ヨハネ 林 満男

守口聖オーガスティン教会

ヨシユア 阿部 猛雄

東豊中聖ミカエル教会

モーゼ 濱崎 洋明

教役者

ヨシユア 原田 光雄

司祭 ヨシユア 原田 光雄

司祭 ペテロ 松山 龍二

司祭 サムエル 坪井 克己

魂の平安をお祈りします